

20年の沈黙をやぶり、パジェロバスがEVに!

HISTORY



当時の
パジェロバス
路線図▶



平成9年に製造されたこのバスは、当時福岡県京都郡犀川町(現みやこ町犀川地区)の山間部集落を地域住民の貴重な足として路線が廃止されるおよそ6年もの間走り続けました。このバスは当時、京築交通という西鉄グループのバス会社が運行しており、走行が困難な過疎地域へ投入する新たな提案として、西鉄グループの会社である西日本車体工業(平成22年解散)が製造した世界に1台の小さな小さなバスです。

単に過疎地域が走れることだけではなく、その集落にお住まいの交通弱者に寄り添った車両を提供するために、当時は言葉すら存在しなかった床が低い『ノンステップバス』に大型バスと同じ機能を装備した“パジェロミニバス”として全国から注目されました。しかし量産はされなかったため唯一無二の貴重な1台となりました。

路線バスとしての役目を終えたパジェロミニバスはその後他の路線に投入されることなく静かに西鉄車体技術で眠っていました。野ざらしでおよそ20年経過したその車体はクモの巣が張り巡らされ、錆であちこちに穴があき、当時の雄姿の面影はありませんでした。

カーボンニュートラルを見据えた新しい技術を!

私たち西鉄車体技術は次の未来に向かって新しいことに挑戦し続けます

近年は、黒部ダムの関電トンネル電気バスや、西鉄のレトロフィットバスなど脱炭素に向けた新たな分野に挑戦しています。我々が得意とする“役目を終えた車両を再生する”に、新しい取り組みである“脱炭素に対応したEVにコンバート”を融合させた新しい技術をお客様に提供し、SDGsを見据えた未来への取り組みをスタートします。パジェロバスをEVにコンバートすることは、この新しい挑戦への第一歩です。

